

備後圏域に所在する道の駅等に関する調査・研究結果(概要)

1. 概略

本調査は、2016年2～3月にかけて実施した委託研究結果をもとに、備後圏域に所在する道の駅等の現状、今後の方向性についてまとめたものである。

2. 調査対象

(1) 第1回調査 (道の駅等の現状認識と改善要望)

①WEBアンケート

実施日時：2/2(火)～2/10(水)

対象者：広島市民500人，福山・三原・尾道・府中・世羅・神石高原の住民500人，
 笠岡・井原・倉敷の住民500人，岡山市民500人

②道の駅等での現地調査

実施日時：2/17(水)，2/21(日)

対象者：対象：調査日に来訪した利用者

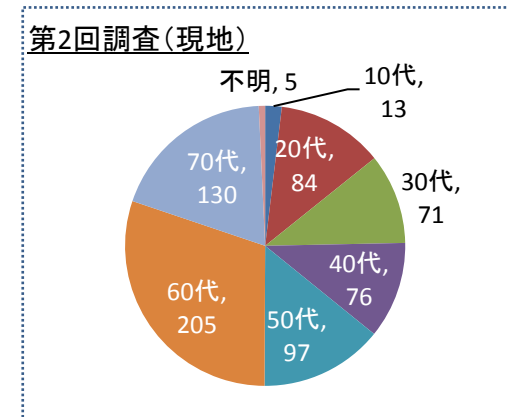
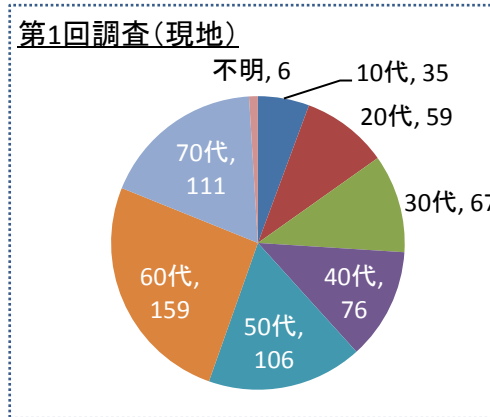
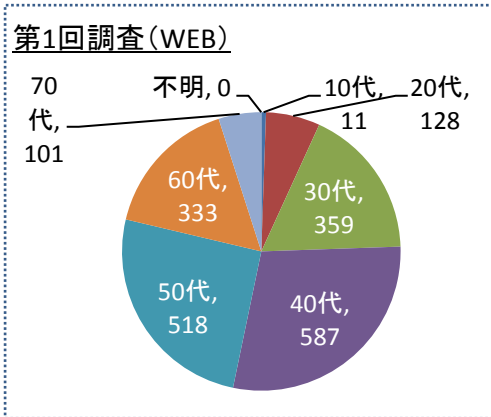
(2) 第2回調査 (道の駅改善案の試行効果確認調査)

①道の駅等での現地調査 (3/13(日)，3/14(月))

(単位：人)

	第1回調査		第2回調査
	WEB	現地	現地
男性	1,078	319	325
女性	958	298	352
不明	1	2	4
	2,037	619	681

	第1回調査		第2回調査
	WEB	現地	現地
会社員	874	200	224
自営業	206	65	65
公務員	90	25	24
主婦	441	113	181
学生	49	45	28
その他	377	162	146
不明	0	9	13
	2,037	619	681



3. 調査結果

(第1回調査)

- ①現地調査では、月に1回以上来る人が45%となる一方、初めて来る人が17%となった。
また、現地の利用者は50代以上が半分以上を占めている。
- ②道の駅の情報はどこから得ているかとの質問に対し、「移動中の道路での案内表示」「口コミ情報」との回答が高い。
一方、「パソコン・スマホのHP」や「スマホのアプリ」との回答が低い。
- ③道の駅の活性化に向けて期待されていることは、地域の観光案内、特産物のブランド化や販売・レストランの活発化、地域の農林水産物販売所との連携、高校生や大学生との連携等である。
一方、期待が相対的に低い項目は、レンタサイクル、コンビニ、ATM、共通ポイントカード、地域公共福祉機能等である。

(第2回調査)

- ①月に1回以上来る人が37%となる一方、初めての人が27%となっている。
また、備後圏域以外の市町からの来訪者が49%（第1回現地調査では37%）となっており、来訪理由については「偶然立ち寄った」人が38%、「近くだから来た」人が30%となっている。
- ②試行実施したチラシやカレンダーについて、「他の道の駅のチラシや、他の道の駅の情報を含んだイベントカレンダーを見て、他の道の駅に行ってみたいか」と尋ねた結果、約6割の人から「行ってみたい」、約2割の人から「やや行って見たいと思う」との回答が得られた。

めざす方向性（案）

- (1) 地域製品の販売、地域産品を生かした料理を提供する機能をより充実させるとともに、地域の高校生や学生と連携することで、道の駅の魅力を高める。
(学生企画した商品、学生がお勧めする商品等)
- (2) 道の駅に来た人に、近隣の温泉・観光情報・イベント情報を分かりやすく提供する仕組みを構築する。
- (3) 道の駅に来た人を、他の道の駅に誘導するため、イベントのチラシやイベントカレンダー等を活用する等連携した取組を行う。
- (4) 道の駅に来ていない人、近隣まで来ている人を道の駅に誘導するための情報案内・広報手段について検討する。
(地元情報誌との連携、近隣公共施設や広報紙での情報提供、旗やノボリ・道路案内等)

※各質問項目は4択で行っており、「そうは思わない：1点、あまりそうだとは思わない：2点、ややそうだと思う：3点、そうだと思う：4点」から調査結果概要を集約している。

※本調査は、利用者が少なくなる2月と3月に行っており、行楽シーズンや夏休みなど季節によって結果が変動する可能性があります。